



▼ Contents

- 1 高総体報告
- 2 部活動3年間を振り返って
- 3 体力・氣力・努力

1 高総体報告



5月30日～6月1日、県内各地で高総体が開催されました。各部活動とも日頃の練習の成果を発揮し、果敢なるプレーが繰り広げられました。陸上競技部が女子砲丸投げで東北大会出場を決めました。今後は硬式野球部甲子園予選、吹奏楽コンクール、また各部活動新人戦に向けてがんばりましょう。

2 部活動3年間を振り返って

陸上競技部としての3年間はとても濃い3年間でした。陸上競技は個人競技なので目標や目指し方、部活に対する意欲など食い違う部分も多く、うまくいかないことが多くありました。それでも部員と話し合い、協力し、高め合いながら頑張ってきました。高総体で満足する結果を出せたものと出せなかったもの、それぞれ思うことはあると思いますが、全力で頑張っていたと思います。

3年生は引退後、進路活動やこれからの人生で陸上競技部での経験を活かして欲しいと思います。1、2年生は悔いの残らないように頑張ってください。3年間ありがとうございました。 **陸上競技部部長**

人数が少なく試合に出られないことがあった部活に私は、何を目的としてバスケをしているのか考えることがありました。自分にとってバスケをすることは辛いことばかりではなく、楽しい・面白いなどプラスに捉えることが多かったことに気付きました。

最後の高総体、1・2年生のプレーを見て「上手くなったな」と思った反面、「自分も最後に試合をして終わりたかったな」と思いました。

バスケ部のみんなには、辞めることなく試合もできるだけ多く参加し、良い思い出を作って欲しいです！

短い間でしたが、支えて下さった先生方、慕ってくれた後輩のみんなありがとうございました！これからの活躍に期待しています。頑張れ！ **バスケットボール部部長**

初めは軽い気持ちで入部し、正直なところ1年で辞めるつもりでした。しかし、そんな私が3年間続けられたのは、一緒に頑張ってきたチームのおかげです。

練習や試合の中では、悔しい思いをすることは何度もありました。それでもみんなで支え合い、励まし合う中で少しずつ成長を感じることができました。

高総体では負けてしまいましたが自分の納得のいくプレーができいい終わり方でした。この3年間の経験を活かしてこれからの生活を過ごしていきたいです。

バレーボール部部长

助っ人として一人来てもらい、二人で挑んだ高総体。急なペアにもかかわらず、息を合わせて全力を尽くせたことは、自分にとって大きな経験となりました。

お忙しい中、練習に付き合ってくくださった先生方や、応援してくれた皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。この3年間、本当に最高の思い出になりました。

ソフトテニス部部长

3 体力・気力・努力

日本初のオリンピック選手**金栗四三（かなくりしろう）**のモットーは「**体力・気力・努力**」です。

何かにチャレンジし、立ち向かっていくためには、まず「**元気な体**」が必要であり、次に、目標をもって頑張ろうという気持ち「**気力**」の高まりが大切になってきて、その「**体力**」と「**気力**」の充実があつてはじめて「**努力**」ができる準備が整う、ということを言い表しています。

金栗の師は**嘉納治五郎（かのうじごろう）**です。嘉納は東京高等師範学校（現筑波大学）校長の時に、お金がなくても、不器用でも、年齢や性別に関係なく、生涯を通じてできる国民体育を重要視しました。特に**長距離走（マラソン）**は、目標を持って取り組むことで自分自身の心も鍛えられ、嘉納が最も推奨しました。

金栗は初のオリンピック日本代表選手に選出され、嘉納校長からその知らせを受けます。しかし、金栗は「自分ごとき山猿が…」とはじめは代表を固辞。それでも、嘉納校長の「**日本スポーツ界の黎明の鐘となれ**」という熱い説得に感動し、日本のオリンピックの扉を開ける決意を固め、**1912年オリンピックスウェーデン・ストックホルム大会**に出場します。競技当日、金栗は**熱射病のため倒れてしまいゴール出来ません**でした。

しかし、金栗はオリンピックの大敗後、「こんな辛い思いをするならマラソンなんて二度とやらない」とはなりません。その後も、オリンピックに挑戦し敗退を重ね、選手としての円熟期を過ぎた後も、走ることを辞めず後進の育成に努めました。「オリンピックで日本を強くするにはマラソン選手を育成すること。一度にたくさんの選手を作るには、駅伝競走が最適だと…」**箱根駅伝を創設**したのも金栗です。

月日は流れ、金栗が76歳となる1967年、当時の記録を調べていたスウェーデンのオリンピック委員会が、**金栗が「(棄権の意思が運営側に届いていなかったため)競技中に失踪し行方不明」となっていること**に気が付き、金栗をゴールさせるため、記念式典に招待しました。

大観衆の競技場を金栗が走り、テープを切ったとき「**日本の金栗、ただいまゴールイン。タイム54年と8か月6日5時間32分20秒3、これをもって第5回ストックホルムオリンピック大会の全日程を終了します**」とアナウンスされました。

これに金栗は「**長い道のりでした。この間に嫁をめとり、子ども6人と孫が10人できました**」と答え、会場は大きな感動の拍手と歓声で包まれたそうです。

この記録は**オリンピック史上最も遅いマラソン記録**とされていますが、金栗が「**オリンピックでの大敗の悔しさをバネに日本マラソン界の向上に尽力した記録**」であるといえます。



熊本県新玉名駅前の金栗四三像
2019年NHK大河ドラマ「いだてん」
の主人公にもなった